

2016年8月7日

「いかに美しいことか 山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。」 イザヤ52：7

エルサレムの復興は不十分ですが、すでに始まっているので、勇気を持って帰って行って欲しいと、主は言われます。

「主の手から憤りの杯を飲」(→51：17) むような苦しみを経験したシオンですが、それはもう終わったのです。「神が彼女(シオン)を自由にしてくださったのだから、泥沼から出て来るべきである。」(カルヴァン)「奮い立て…輝く衣をまとえ(オシャレをせよ!)…銀によらずに買いもどされる(→50：2)…わたしの名を知るようになる」と主は励まされます。(救いは本当である)

かつて「良い知らせをシオンに伝える者」(40：9)は誰かいないか、と語った預言者ですが、今の彼には、「あなたの神は王となられた、とシオンに向かって呼ばれる」者(自分自身?)が見え、「(都の)見張りは声をあげ…すべての人が…神の救いを仰ぐ」のが見えるほどリアルになっています。(救いは近い)

心を動かされたバビロン在住の民に向かって、彼は「立ち去れ…その中から出て身を清めよ」と主の民らしく生きることを勧め(主日礼拝!)、「先を進むのは主」だと言います。(救いは安全)

私たちの誰もが「良い知らせを伝える者の足」(ローマ10：15)です。「立てよいざ立て」(讃380番)と歌いましょう。

2016年8月14日(召天者記念礼拝)

「主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。」 ルカ16：8

主イエスは弟子たちに、人生の終わりを考えて生きること(「終活」!)の大切さを、たとえ話で語られます。

「ある金持ち(地主)に一人の管理人(小作料管理者)がいた」のですが、彼の不正が発覚して、「もう管理を任せておくわけにはいかない」と言われ、人生の危機に直面します。その時、彼はこの世的な成功の空しさを知り、別な生き方を模索します(ピンチをチャンスに!)

彼は、この世的な成功よりも、「自分を家に迎えてくれるような者」(神の世界で生きる仲間)をたくさん作ろうと決め、大胆に実行します。「(オリーブ)油百バツ(2千3百ℓ)」や「小麦百コロス(2万3千ℓ)」の小作料を大幅に減額して、小作人たちと強い絆を結びます。「このたとえによって、主は将来のために何も備えない生き方の罪深い冷淡さを告発される。」(カルヴァン)

主人(神)は優しく(→マタイ20章の「ぶどう園の労働者」)、怒るよりも感心し、彼を「光の子ら」(信仰者)の模範とされます。生きていた間に準備して、「金がなくなったとき(死後)…永遠の住まい」に入らせたいのです。

人生の本当の勝利者は、生涯の終わりのために備えがある人です。「目さめよ、わが霊」(讃370番)と歌いましょう。

2016年8月21日

「彼が担ったのはわたしたちの病、…わたしたちの痛みであったのに…」 イザヤ53:4

預言者の努力が実を結ぶ頃、栄光を前にして、彼はこれまでの苦しみを語ります（オリンピックのメダリスト!）。

主なる神は彼について、「わたしの僕は栄える…高く上げられ…」と讃え（表彰台!）、一時は「彼の姿は損われ…面影はない」（かつての捕囚の民に似て）有様だったのに、今では「多くの民を驚かせる」ほど輝いていると言われます。

預言者の仲間たちも、その栄光に圧倒されて、「わたしたちの聞いたことを、誰が信じ得ようか」と、それ以前の彼がどれほど低く見られていたかを語るのです。「乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝」として主に召されましたが（ライバルたちの嫉妬!）、「我らが見るべき美わしき姿はなく…あなどられ…我らも彼を貴まざりき」（交読文39番）と告白します（→十字架の主イエス!）。

彼を迫害していた者たちも今では悔いて、「わたしたちは羊の群れ…それぞれの方角に向かって行った」（→50:11）自分たちの罪を、「主は彼に負わせ」られ、「彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた」と、感謝するのです。

「わたしたちの病」と言うべき人間の罪のために、主イエスは「父よ、彼らを赦したまえ」（ルカ23:34）と、代って苦しんでくださいます（→讃136番）。

2016年8月28日

「屠り場に引かれる小羊のように…彼は口を開かなかった。」 イザヤ53:7

預言者の苦しみは尋常ではなく、死を覚悟するほどでしたが、それを忍び通した時、主は彼に栄光を与えられます。

かつて彼を苦しめた者たち（→50:6）が今では悔い改めて、「彼は苦しめられるれども、みずからへりくだり…虐（しいたげ）と審きによりて取り去られ…わが民（イスラエル）の咎（とが）のためにうたれしなり」（交読文39）。と告白します。「命ある者の地から断たれ」るほどの苦しみですが（→エレミヤ11:19）、多くの人を救います（→使徒8:35）。

彼らは今「病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ、彼は自らを償いの献げ物とした（→ヨハネ1:29）」と悟ります。彼は「（信仰による）子孫が末永く続く」（シオンの繁栄!）のを見、「それを知って満足する」でしょう（→マルコ14:41「もうこれでいい」）。

主なる神も、「わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために、彼らの罪を自ら負った」と讃え、「多くの人を彼の取り分」として与えると約束されます（勝利者!）。「背いた者のために執り成し」をすることも大きな働きです。

屠殺される羊は暴れるでしょうが、この「主の僕」は口を開きません。「主はピラトの宣告に黙って従うことを願われた」（カルヴァン）のです（→讃121番）。